

## 「モンゴルを訪問して」

ある会合で、今回同行の内海さんにモンゴル旅行の写真を見せてもらった。沢山の写真の中に、草原の中に飛行機が1機写っているものがあり、私はその写真が非常に印象に残り、モンゴルに行ってみたくなった。それで、「またモンゴルへ行く時は連れて行ってほしい。」とお願いをしていた。

内海さんから、5月の終わりに今回のツアーに誘ってもらい、是非行ってみたい所と思っていたので参加させてもらうことにした。

7月18日、待ちに待ったモンゴル行き、心をわくわくさせながら関空を飛び立った。2時間程たった頃から、眼下に緑がなく、起伏がない、砂ばかりの光景が目に入りだし、モンゴルに入ったのかと感じた。しかしそれから1時間たっても同じ光景ばかりが広がっており、これがまさしくモンゴルかと感動を覚えた。約4時間でウランバートルの空港に降り立ち、空港では我々の案内をしてくれる通訳のブルガンさん、ダワーさんが待っていてくれた。

1日目、2日目とウランバートル市内で寺院や博物館などの観光を楽しんだが、途中の道路や建物をみると、市内の道路状態は悪く、又発電所などの建造物は古く感じ、これからの国と感じた。

2日目の宿泊所は、南ゴビのゲルである。ウランバートルをプロペラ機で出発し、夕方南ゴビに着いた。南ゴビの空港周辺を見回すと、遠くに集落的な物も見えるが、全体的に大草原である。これが大草原か、と感動を覚えながら、いよいよゲルまで車で移動となった。

車はレンジャー風の子供車だった。バスからの景色は、行けども行けども、同じ光景の草原である。その草原を砂煙を巻き上げながら猛スピードでバスは走り、約1時間ほどでゲル村に着いた。ガイドさんと運転手さんが、ゲル村に入る手続きに行った。ところが、なかなか帰ってこない。長いなと思っていると、このゲル村ではないという。ガイドさんも運転手さんもしぶしぶ車に乗り込んで、次のゲル村へと出発した。車に乗り込んで話を聞くと、次のゲル村までは1時間半ぐらいとガイドさんは言ったが、ダワーさんによると約250kmあるらしいから3時間以上はかかるだろうとの事。運転手さんは、初めは少し戸惑った所も見えたが、黙々と砂煙を巻き上げながら車を走りに走らせた。

日本でこんな事があつたらどうだろう。喧嘩になるか、補償問題になる所だろう。私は悠然と運転をする運転手さんの顔を見ながら、お国柄なのだろうと面白くなり、自分の心も大きくなったような気分になった。

ゲルについては完全に次の日になっており、他のゲルは当然寝静まっていたが、ゲル村のスタッフたちは徐々に集まってきて、いやな顔も見せず軽食の準備をしてくれた。

こんなハプニングで始まったゲル村の体験だったが、ゲルでのベッドの快適さや、朝の大自然の空気の爽やかさなど、私には満足できるものであった。

又、移動中に、沢山の山羊が群れているところがあり、バスから降りてみると、そこには小さな井戸があった。子供たちが水汲みをしている。一人の少年が、井戸から桶で水を汲み上げ、その水をおいしそうに、誇らしそうに、ごくっと一杯に飲んで見せた。その水は、よく見ると、少しゴミが入っているように見えた。しかし、ここの人たちには、清潔で、大事な水に違いない。まさしく砂漠のオアシスなのだろう。

砂煙を巻き上げ、疾走するバスにもなれ、行けども行けども草原の世界にも慣れた4日目、すばらしい溪谷を見学した。バスの駐車場から約5km 溪谷に入った所に、1年中、氷河が残る所があると聞き、長袖シャツなど準備をしていたが、駐車場では下の草原と変わらない暑さで、こんな所に氷河なんかあるのだろうかと思った。が、あった。どんどん解けてはいるが、氷の塊がある。けわしい溪谷で、少しの時間しか日が当たらない所らしい。私たちが行った時間帯はちょうど昼間で、日が当たっており、氷があると涼しいと感じたが、その途中では汗をかいた。現地のガイドさんの話では、この氷も4〜5年もすれば無くなるだろうとの事だった。ここにも地球温暖化は押し寄せている。

感動の連続だった南戈壁に別れを告げ、ウランバートルに帰ってきた。日本大使館の訪問や、モンゴル日本センターの訪問をし、このツアーの目的でもある衣料品配布活動も経験させて頂いた。南戈壁でも赤十字社で衣料品配布活動は行ったが、ウランバートルでは子供たちへの配布が中心で、自分の孫を思い浮かべながら子供たちと接し、手渡した。モンゴル国立子供芸術センターでは、大歓迎の中、すばらしい子供達のショーを見せて頂き、日本救援衣料センターには、これまでのこの活動に対し、感謝状や記念品が贈られた。なぜか、私たちも感謝状や記念品を頂いた。

この会場には、モンゴル外務省の局長も来ておられ、国挙げて感謝されている態度に、改めてこの活動がすごい活動なんだと感じた。この活動がずっと継続され、モンゴルだけではなく、他の発展途上国や災害の被災国など、世界の各国へ、衣料配布活動をされていることに心から敬服した。自分は、何の活動もしていないのにと気後れする心境になり、今後は、少しでもお役に立てる事をしなければと思っている。

最後に大草原の中で騎馬隊のショーを見せてもらった。迫力万点のすごいショーだった。舞台が大草原で、役者は500人、馬500頭、まるで本物の騎馬戦のようであった。モンゴルへの旅は感動で始まり、感動で終わった。すごいツアーに参加させてもらい感謝している。こんなツアーなら何回でも行きたい。